

〈1〉トランプ氏のグリーンランド買収で注目される北極海をめぐる地政学

海上自衛隊幹部学校 非常勤講師

退役 1 等海佐 石原 敬浩

■はじめに

本ジャーナルに北極関連の記事を掲載して頂くのは 3 回目となります。初回が 2020 年「氷上のシルクロードにおける米中露の思惑と我が国の安全保障」というタイトルで中国の北極海への進出を中心に説明しました。次が 2024 年、ロシアによるウクライナ侵略後フィンランド・スウェーデンの NATO 加盟に代表される戦略環境変化を解説しました。

そして 3 度目、皆様も御承知のトランプ大統領の再登場、グリーンランド購入発言とパリ協定離脱という情勢変化を受けて、改めて北極海の地政学を解説させて頂こうというお話です。

地政学という学問、簡単に言えば地理的な要素を踏まえて政治学、特に国際政治学を読み解こうというもの。その点からすると北極海ほど面白い地域はありません。アメリカが温暖化対策のパリ協定から脱退したと言って、温暖化が緩やかになるわけではありません。その中で、何故にグリーンランドが注目されるのか、その背景や歴史的経緯を詳しく見れば、戦略的重要性、米露中の核戦略・資源獲得競争も透けて見えます。

ということで、地球の頂点トップオブザワールド

から俯瞰して、21 世紀の大国間競争の現状を説明させて頂きます。宣伝になりますが、詳しい解説は拙著『北極海 世界争奪戦が始まった』（PHP 新書）をご覧くださいければ幸いです。

★トランプ大統領のグリーンランド購入発言とその背景

「双眼鏡を使わなくても、中露の船があちこちにるのが見える」、「国家安全保障上の要求でグリーンランドの領有が必要」トランプ大統領の発言です¹。2025 年 3 月にはプーチン大統領も北極圏にあるムルマンスクで開かれた国際フォーラムで演説し、「北極圏の重要性は増しているが、地政学的な競争が激しくなっている」、トランプ大統領発言には「計画は真剣なもので、長い歴史がある。アメリカが北極圏で自国の利益を組織的に追求することは明らかだ」と警戒感を示しました²。

アメリカがグリーンランドに興味を持つ歴史は 19 世紀にまで遡ります。1868 年スワード国務長官はアイスランドとグリーンランドをまとめて 550 万ドルでデンマークから購入しようとしたが失敗に

¹『読売新聞』2025 年 1 月 12 日。

² NHK News Web、2025 年 3 月 28 日。

終わっています³。

当時の報告書によればグリーンランドの購入目的は広大な漁場、野生動物、豊富な鉱山資源。さらにグリーンランドを取得すればアラスカとグリーンランドの間に位置するカナダも米国の一部にならざるを得なくなるだろうと分析しています⁴。トランプ大統領の「カナダを 51 番目の州にする」発言とも通底する考えです⁵。ちなみに 1867 年にはロシアからアラスカを購入することには成功しています。

本格的にグリーンランドに係わるのは第二次大戦です。本国デンマークがドイツに占領されたため、1941 年 4 月デンマークのカウフマン大使はワシントンで「グリーンランドの防衛に関する協定」に署名しました。グリーンランドに対するデンマークの主権を承認する一方、グリーンランドに軍事基地を設立し、作戦行動する権利を米国に与えることとなりました。これにより連合軍は U ボートとの戦いのため哨戒機の基地として、気象観測の拠点として、欧州に移動する各種航空機の中継基地として使用される事になります⁶。

第二次世界大戦終了直後の 1946 年にはトルーマン大統領が 1 億ドルでグリーンランドの購入を打

診しましたが、デンマークから拒否されています⁷。しかしながら、冷戦が激化するにしたがって、戦略的価値が高まり、新たな基地・装備が配置されるようになって行きました。

★北極海の地政学的変化

北極海における地理学的な変化は気候変動・温暖化、それに伴い海水が減少するという問題です。国連広報センターは 2025 年 1 月「世界気象機関（WMO）に所属する国連の気象専門家は 2024 年が観測史上最も暑い 1 年であり、世界全体の気温が産業革命以前と比べて 1.55℃上昇したことを確認しました」と発表しました⁸。温暖化の影響は地球上で同様ではなく、北極は他の地域の 4 倍速で進行しているという研究もあります。氷雪の融解により太陽光の吸収が加速し、負のスパイラルとなり急速に温暖化が進んでいるというのです⁹。

米国立氷雪データ・センター（National Snow and Ice Data Center : NSIDC）の研究によれば北極海の夏季氷結面積は 10 年率 9.9% の減少になっています。多少の増減はありますが、着実に減少傾向にあります。

³ Elías Thorsson, Marybeth Sandell “Trump’s Greenland purchase plan has been a US ambition since 1868,” Arctic Today, January 6, 2025.

⁴ 「米国のグリーンランド購入、失敗の歴史 なぜ狙い続けるのか」『ナショナルジオグラフィック』、2025.01.28。

⁵ NHK News Web、2025 年 1 月 25 日。

⁶ Taagholt, Jørgen, and Hansen, Jens Claus. 2001. Greenland: Security Perspectives. Trans. Daniel Lufkin. Fairbanks, Alaska: Arctic Research Consortium of the United States.

⁷ Steve Holland, Gram Slattey, Tim Reid, 「トランプ氏のグリーンランド購入案、勢力圏拡大と歴史的功績狙う」ロイター Japan、2025 年 1 月 9 日

⁸ 国際連合広報センター、「2024 年は史上最も暑い年に — 国連の気象機関が発表（UN News 記事・日本語訳）」、2025 年 01 月 21 日。

⁹ Henry Fountain, “Arctic Warming Is Happening Faster Than Described, Analysis Shows,” *The New York Times*, Aug. 11, 2022.

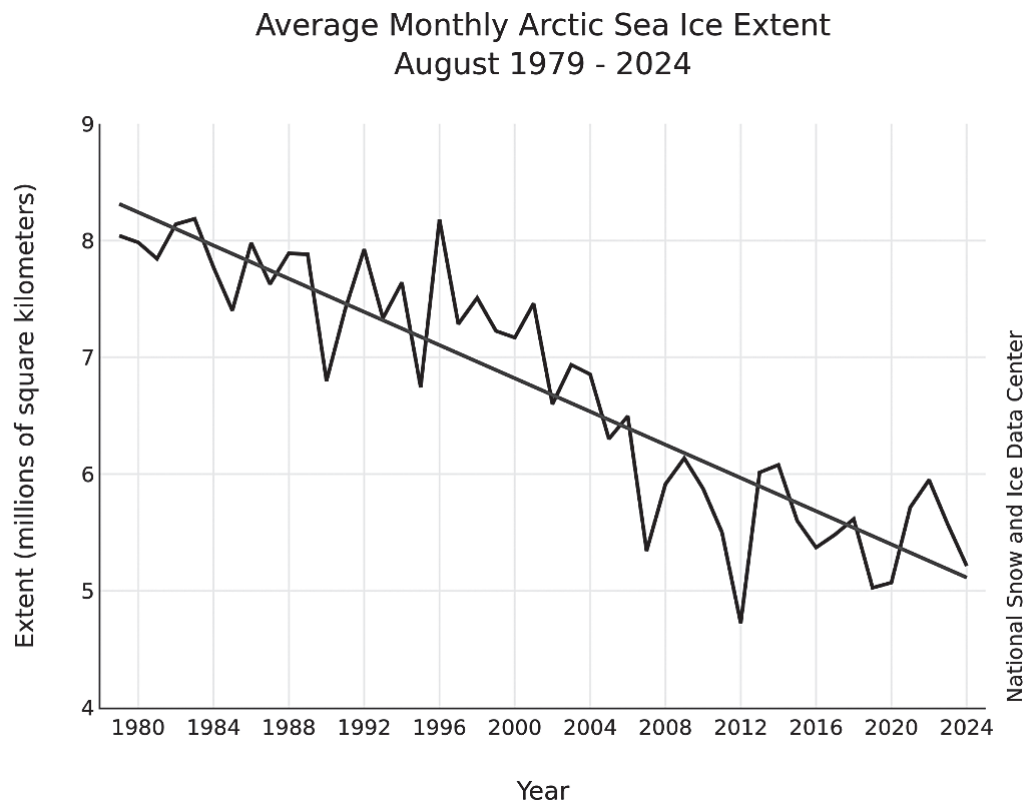


図1：北極海海氷面積の減少

出所：National Snow and Ice Data Center：NSIDC

ヨーロッパから黄金の国ジパングや香辛料の原産地アジアに向かう航路として、北極海経由が近いことは大航海時代の頃から知られていました。ポルトガルでは、バーソロミュー・ディアスやヴァスコ・ダ・ガマがインド航路を開拓し香辛料貿易、アジアへの進出を図ります。同じくカトリックのスペインは、コロンブスが大西洋を横断してアメリカ大陸に到達、マゼランが南米南端経由で世界一周を達成します。この当時、海洋先進国はポルトガル、スペインでした。そこで後発の英国、オランダは北極海経由でのアジアを目指すことになりました。フロビ

シャーやハドソン、フランクリンといった探検家が挑戦しますが、ことごとく失敗に終わりました。夏でも融けない氷の海、これが行く手を阻み、多くの探検家が夢を果たせずに遭難することとなったのでした。

こういった経験から地政学の祖、ハルフォード・マッキンダーが、ユーラシアの内陸部を「ハートランド」と名付け、重要性を説いた時、その地図で描かれた北極海は夏でも氷が融けない凍ったままの海、通航が不可能な経路として扱われました。